

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	成田市	代表者名	小泉 一成		
担当者部署	総務部	連絡先電話番号	0476-20-1501		
担当者役職	主幹	担当者氏名	成田 美ゆき	連絡先E-mail	*****
住所	286-8585 千葉県成田市花崎町760				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	池田 昌人
評価	大変よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	今回は管理職対象であったため、前回と比較すると半分の時間で午前午後にかけて開催した。 6時間の内容を約3時間にまとめていただいたが、本市の課題に対して適格にアドバイスをいただき、また、前回同様とても わかりやすく、時折クイズをはさんでの講義であったため、受け身だけで終わらない研修とすることができた。
アドバイザー への要望事項	今年度はICT推進リーダーと管理職を対象に実施したが、より多くの職員に受けてもらいたいと考えているため、可能であれば来年度以降も講師をお願いしたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年8月1日	講演(実地)	有	令和5年6月1日	683
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和5年8月18日	講演（実地）	9時00分	17時00分	60
				活動時間（分）	420
3-2. 派遣場所	会場名	成田市役所	最寄駅	成田駅（JR・京成）	
	所在地	成田市花崎町760	最寄駅からの交通手段	徒歩	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/
------	--------------------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	管理職	75人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	全庁的にDXの重要性は認識していると思われるが、業務の変革や新しいものを取り入れることに抵抗のある管理職が一定数存在している。また、BPRを含め業務改革をどのように進めたらよいかわからない、日々の業務に追われ新たなことに取り組む余裕がないなど、様々な理由により担当部署からの積極的な業務改革の取組が見られない状況である。行革担当やDX推進担当が伴走型で各部署と取り組んでいきたいと考えているが、それ以前に各部署の管理職の意識改革を行いたい。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	研修によって、部下とのコミュニケーションの活性化や企画提案の手法などを再認識してもらい、若手職員の業務改革や新たな業務へのチャレンジ精神を受け入れ、各部署の管理職と若手職員が一体となって業務改革を進めていく体制を整えたい。その際に、業務改革に当たっての課題やどのような手法が効果的かなどについて、行革担当やDX推進担当がアドバイスをを行い、伴走支援することにより、市民サービスの向上や業務効率化を実現したい。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	部下から期待どおりの提案を得られない場合、その提案に費やした時間が無駄になってしまう。部下の良い提案を引き出すためには、コミュニケーションによって自己開示をすることが効果的で、プロジェクトを進めていく中でのハウレンソウのタイミングも人によって異なることから、自らハウレンソウをどのタイミングで求めるか部下に伝えておくことがよい。そのほか、相手の期待値を知ること、効果分析表による優先順位の決定、企画は早い段階で実践してみるなど様々な考え方、手法を教えていただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	現在参加した職員にアンケートを実施しているところであるが、多くの職員が「満足」と回答している。部下とのコミュニケーションの重要性などはわかったものの、実践できるか不安を抱いている職員もいるようであった。ただ、改めて「部下を褒めること」、「目標を持つこと」など普段の業務で忘	

	れがちなことの大切さを思い出した職員も多く、この研修を今後の業務に生かしていきたいという気持ちアンケートから読み取れたので、来年度以降も継続して意識改革の土壌を育み、業務改革やDX推進が当たり前となるよう一歩一歩進めていきたい。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	ICT推進リーダーのような若手職員と比較すると、研修参加の姿勢が消極的な職員も見られた。もちろん全職員の意識を変えることはできないが、そのような職員の意識を少しずつでも変えていくことが非常に重要になると考えているため、来年度以降も本研修を継続し、より多くの職員に自分の想いをカタチすることを学んでいただきたい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケートは回答期限が8/28であり、現段階では最終結果が出ていないが、多くの職員が「満足」と回答している。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	管理職の新たな業務に対する抵抗感をなくし、課員誰もが自らの業務の課題解決や目標達成に向かって、どのように進めていくかを自主的に考え、実現していく力を身につけ、個人又はチームでの業務改善や新たな企画提案を活発に行えるようにし、組織全体の活性化を図りたい。そのために、次年度	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



